

## 新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和4年第41週 令和4年10月10日(月) ～ 令和4年10月16日(日)

今週： 令和4年第42週 令和4年10月17日(月) ～ 令和4年10月23日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	① 陽性者数	① 総数	2,807人	2,581人	↓	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 <sup>※1</sup>	2,348人	2,203人	↓		
		セルフテスト陽性 <sup>※2</sup>	459人	378人	↓		
	② 対人口10万人（総数）	182.3人	167.6人	↓	1,433人	令和4年第30週	
	③ 前週との増加比（総数）	0.97	0.92	↓	18.0	令和4年第1週	
④ 陽性率 <sup>※3</sup>	36.6%	34.8%	↓	64.3%	令和4年第30週		
医療提供体制	⑤ 入院患者（陽性確定例）	入院中の患者数 <sup>※4</sup>	80人	72人	↓	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	16.5%	14.8%	↓	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥ 重症患者（陽性確定例）	入院中の患者数 <sup>※4</sup>	1人	1人	→	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	1.4%	1.4%	→	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

### <モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

## <変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	前週	直近1週間	累計
	R4.10/10 ~ R4.10/16	R4.10/17 ~ R4.10/23	R3.3/11 ~ R4.10/23
$\alpha$ 株（アルファ）	0件	0件	203件
$\beta$ 株（ベータ）	0件	0件	0件
$\gamma$ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
$\delta$ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	1件	6件	478件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	0件	1件	6件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	23件	46件	427件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

## <評価>

### 第 42 週（令和 4 年 10 月 17 日～10 月 23 日）

令和 4 年 9 月 26 日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目も再検討を行い、令和 4 年 10 月 4 日公表分（第 39 週）から、陽性者数は HER-SYS による医療機関等からの届け出分と、自己検査によって各自から届けられたセルフテスト陽性者分、およびその合計数としました。第 38 週までとは連続性がなくなりますが、これにより今後の流行状況の動きの概要を見ることとなります。

入院中の患者数・重症者数については変更がありませんので、その傾向は連続して見る事ができます。

第 41 週（前週）は、セルフテスト陽性者数・前週との増加比・検査陽性率が増加、その他の項目は減となっていました。第 42 週（今週）は入院中の重症患者数が 1 人と 41 週（前週）と変化がないこと、それにともなって重症病床使用率も変わりがないことを除き、各項目とも第 41 週（前週）に比し減少となっています。

### <感染の状況：直近 1 週間>

- ① 新規陽性者数は、医療機関等からの報告数は第 39 週 3,198 名、第 40 週 2,484、第 41 週（前週）2,348 人、第 42 週（今週）2,203 人と、4 週連続して減少となっています。セルフテスト陽性者数は第 39 週 495 人、第 40 週 399 人から、第 41 週（前週）は 459 人と増加しましたが、第 42 週（今週）は 378 人と再び減少しています。医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第 39 週 3,693 人、第 40 週 2,883 人、第 41 週（前週）2,807 人、第 42 週（今週）2,581 人と、4 週連続して減少となっています。
- ② 対人口 10 万人あたりの新規陽性者数は、第 39 週 239.8 人、第 40 週 187.2 人、第 41 週（前週）182.3 人、第 42 週（今週）167.6 人と、4 週連続して減少となっています。
- ③ 前週との増加比は、第 39 週 0.81、第 40 週 0.78 から、第 41 週（前週）0.97 と増加しましたが、第 42 週は 0.92 と前週より減少しており、4 週連続して 1.0 以下となっています。
- ④ 検査陽性率は、第 39 週 40.2%、第 40 週 36.2%から、第 41 週（前週）は 36.6%と若干増加しましたが、第 42 週（今週）は 34.8%となっています。

### <医療提供体制等の負荷：報告日 10 月 23 日現在>

- ⑤ 入院中の患者数は、令和 4 年第 1 週 23 人から毎週増加、第 7 週 335 人をピークとして第 24 週 24 人まで減少しました（第 6 波）。第 25 週 41 人から毎週増加し第 7 波と称されるようになり、第 31 週 368 人をピークとしてその後減少、第 38 週 105 人から、99 人→92 人→80 人、そして第 42 週（今週）は 72 人と、11 週連続して減少しています。

確保病床数は現在合計 485 床となっています。入院病床使用率は、令和 4 年第 1 週 4.8%から急増し、第 7 週 70.2%をピークとして第 24 週 4.9%まで減少しました（第 6 波）。第 25 週から毎週増加し、第 31 週（第 7 波）75.9%をピークとして減少が続き、第 38 週 21.6%から、20.4%→19.0%→16.5%、そして第 42 週（今週）14.8%と 12 週連続して減少しています。

- ⑥ 重症入院患者数は、令和 4 年に入った第 1 週は 0 人でしたが、第 2 週 1 人から第 8 週 30 人まで増加し、第 6 波のピークとなりました。その後減少が続き、第 21 週から第 25 週は重症入院患者 0 人が 5 週連続しました。しかし、第 26 週から増加が続き、第 32 週（第 7 波）14 人となりました。第 33 週からは毎週減少し、第 38 週 4 人、第 39 週 3 人、第 40 週から第 42 週（今週）の 3 週は 1 人となっています。

重症者の確保病床は現在 69 床となっています。重症病床使用率は、本年第 3 週 4.3%から増加が続き、第 8 週の 43.5%が第 6 波のピークとなり第 9 週 2.9%まで減少が続き、第 21 週から第 25 週は重症入院患者数 0 人のため重症病床使用率も 5 週連続して 0.0%となっていました。しかし第 26 週 2.9%か

ら増加が続き、第 32 週の 20.3%を第 7 波のピークとして減少し、第 38 週 5.8%、第 39 週 4.3%、第 40 週から第 42 週（今週）は 1.4%となっています。

### <変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第 42 週（今週）は、オミクロン株 53 件中 BA.2 が 6 件、BA.4 が 1 件、BA.5 が 46 件となっています。

本市における新規陽性者数は減少傾向が続いておりますが、全国的には地域差のあるものの下げ止まりないし微増傾向がみられています。これをもって再拡大の兆しとは言えないのではないかとと思いますが、今後の動きに注意しておく必要はあります。本市においては、入院患者数は減少が続いており、重症入院患者数は 3 週間連続し 1 人となっています。特に重症患者ができるだけでないように、発生しても医療で受け止められる（入院ができる、経過観察ができる）体制をいつでも取れるようにしておくことは極めて重要なことと思います。

通常の生活が戻りつつあることはとても良いことですが、今の生活の状況を維持し、さらに良い方向に向けていくためには、お一人お一人に基本的な感染症の予防に気を付けていただくことが大変重要です。よろしく願いいたします。

新型コロナウイルス感染症が減少している一方、ここ数年極めて少数となっていた一般的な感染症が顔を出し始めています。これからは冬の食中毒の走りとなるノロウイルス感染症、毎冬話題となるインフルエンザなどがあります。しかしこれらの感染症も、新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。できるだけ三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどになります。また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には無理せず体を休めることも大切です。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、早めの受診が必要です。かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。

新型コロナワクチンについて、本市においてはオミクロン株対応ワクチンの接種が始まりました。希望される方すべてにすぐに行きわたるわけではありませんが、接種会場・医療機関などに順次配布が続けられています。接種対象となっている方におかれましては早めに受けていただき、免疫を強固なものにしていただくことを強くお勧めします。また様々な事情でワクチン接種ができない方におかれましては、感染予防に関する注意は強めにさせていただきますよう、よろしく願いいたします。

インフルエンザワクチンも開始されています。高齢者の方等を対象とした定期予防接種については川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000017625.html>) をご覧いただくか、川崎市予防接種コールセンター（044-200-0144）にお問い合わせください。任意接種としてインフルエンザワクチンの接種を希望される方はかかりつけ医等、医療機関などにお尋ねください。子供さんを中心とした定期接種のワクチン、高齢者の方の肺炎球菌ワクチンなどもお忘れなく受けておくことをお勧めします。